

[ 手順 ]

- (1)チェック項目を一読してください。
- (2)手話通訳映像(約4分間)を見てください。
- (3)各チェック項目に対し、5段階であてはまる評価にマルをつけてください。
- (4)総合評価の決め手となったカテゴリー3つにマルをつけてください(重要度)。

通訳技術

		全く そう 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	とても そう 思う	重要度 (総合評価の 決め手となった カテゴリー) 1位 ① 2位 ② 3位 ③	
全体像の把握	1	全体的に安心して、長く見ていられるか。					1 2 3 4 5	
	2	全体的に講義の内容やストーリー(展開)がつかめるか。 (講義のねらいは何であったかが把握できるか。など)					1 2 3 4 5	
	3	話者の雰囲気がよく伝わるか。					1 2 3 4 5	
見やすさ	4	手話のリズムに違和感がないか。					1 2 3 4 5	
	5	手話単語や非手指動作の無駄な繰り返しがないか。 (“間”の取り方に違和感がないか。聞き逃しやミスによる無駄な動きがないか。通訳者が聞き逃しやミスを修正できているか。など)					1 2 3 4 5	
	6	日本語の語順にこだわらず、手話として自然な文になっているか。					1 2 3 4 5	
	7	表情や手話語彙の動きの強弱によって自然なイントネーションが表現されているか。 (手話単語や非手指動作の強弱は違和感のない通訳か。手話表現の大きさや位置は適切か。通訳者の上体の使い方は適切か。など)					1 2 3 4 5	

表現技術口

CL・空間活用	8	用語や説明の内容が、視覚的にわかるCL構文によって明確化されているか。 (使われているCLにバリエーションがあるか。用語や説明の内容が視覚的にわかるような表現が使われているか。板書やスライドの図を生かした手話表現をしているか。など)					1 2 3 4 5	
NMS(非手指動作)	9	表現された手話に適切なNMS(非手指動作)が使われているか。 (目の開閉によって副詞的な意味が表現されているか。あごの動きによって副詞的な意味が表現されているか。口形によって副詞的な意味が表現されているか。など)					1 2 3 4 5	
RS(リファレンシャルシフト)	10	視線の方向などを用いて人物が明確に表されているか。 (人物の交代がわかるか。複数の人物やその関係を表現しわかれるか。など)					1 2 3 4 5	

講義に応じた技術(翻訳)

情報量・忠実さ	11	話の概要を理解するのに十分な情報が伝わってくるか。					1 2 3 4 5	
	12	話の情報量に不足なく、話の細部が伝わるか。					1 2 3 4 5	
	13	伝えられている情報に間違いやズレがないか。					1 2 3 4 5	
論理や態度の伝達	14	句や文の区切りや接続関係が明確に捉えられるか。 (文と文との間を結ぶ接続関係〔逆接、順接など〕がわかるか。など)					1 2 3 4 5	
	15	議論の流れや論理展開が明確に伝わるか。 (文の主体や話者の交代が明確に伝わるか。文の主題と主題に対する説明の内容が捉えられるか。文の流れから話の論点や結論が明確に捉えられるか。など)					1 2 3 4 5	
	16	話されている内容についての話者の態度が伝わってくるか。 (推測、断定、使役、可能、受身、義務、要求などの表現が伝わってくるか。句や文を表す直前に、話者の判断・態度を表す手話表現や非手指動作があるか。話者の態度の度合いが捉えられるか。など)					1 2 3 4 5	
	17	話を聞くことで学問的思考(批判的思考、創造的思考)が喚起されるか。 (話者の論理を自分の中で再構成することができるか。話をもとに自分なりの意見や疑問を持つことができるか。など)					1 2 3 4 5	
語彙選択	18	日本語の概念に忠実な手話単語を選択しているか。 (省略された日本語を必要に応じて具体的に表現しているか。指示語の示す事柄を具体的に言い換えているか。など)					1 2 3 4 5	
	19	専門用語の意味がわかるような手話語彙が選択されているか。 (過剰な原語借用がないか。原語そのものが伝わるように日本語の口形がつけられているか。など)					1 2 3 4 5	

総合評価

総合評価	20	手話通訳を見て講義を理解することができたか。 (この通訳で試験やレポートに臨めるか。学習目標を達成できるか。など)					1 2 3 4 5	
	21	この手話通訳は自分にとって良い通訳だった。 (別の講義でもこの通訳を使いたい。など)					1 2 3 4 5	